

災害復旧

7月15日ごろから梅雨前線が日本列島上空に停滞したことによる豪雨により、中国、北陸、中部、九州地方では甚大な被害が発生しました。

本市では、幸い大きな被害はありませんでしたが、7月16日から19日にかけて断続的な降雨により土木施設、農業施設、林道などに被害が発生しました。早急に災害復旧に努めます。

市道南北線関連事業

市道南北線関連事業については、7月3日付けで地域再生法に基づく国の認定を受け、地域再生基盤強化交付金制度の活用が可能となりました。

この制度は、地域経済の活性化

深める努力をしています。そのため、両病院でどのような体制で連携を図るのが望ましいか幹部職員を中心に考えて取り組んでいます。

さらに、職員においては引き続き意識改革の推進を図るため、接遇や医療制度改革に重点を置いた職員研修を定期的に行い、個々においてはグループ討議をするなど、患者の目線により近い医療などの提供を目指し努力しています。

そして、将来の病院構想を考える中、病院の基本計画の基礎となる調査業務を医療コンサルサント会社へ委託しています。

また、今後の計画を検討するために瀬戸内市立病院等検討委員会を発足し、公的医療機関の概要説明をしました。

今後の病院のビジョンづくりには、全職員で取り組み、市民への安全安心な医療体制を提供するように努力します。

化や地域雇用の創造を実現することを目的として制定されたもので、これにより事業費の2分の1が交付金として支援されます。

エーゲ館うしまと観光センター

エーゲ館うしまと観光センターの整備事業については、観光案内にとどまらず、本市の魅力情報発信基地ともいえるべき施設にしたいと考えています。

今年度は、用地取得、概略設計などを考えていて、本体建築については19年度を予定しています。



観光客にいろいろな観光情報を発信しているエーゲ館うしまと観光センター

消防防災

火災・救急の概要ですが、火災については8月30日現在での火災発生件数は14件で、昨年より6件の減少とその内建物火災は5件の減少となっています。今後も火災予防広報、住宅防火診断、予防査察など、火災を未然に防ぐ予防行政の充実強化を図っていきます。

救急業務は、昨年同期と比較し若干の減少となりましたが、7月以降増加の傾向となっています。今後の救急需要の対

上水道事業

吉井川の流況については、本年は降水量も豊富で、安定的な水供給となっています。

建設改良事業のうち、牛窓町長浜西浦地内の石綿管布設替工事については工事施工中であり、邑久町山田庄・尾張地内の石綿管布設替工事、牛窓町師楽・紺浦・奥浦地内の公共下水道事業の配水管布設替工事、長船町飯井・牛文・磯上地内の農業集落排水事業に伴う配水管布設替工事は、発注しました。その他の工事箇所についても設計中であり、設計が完了次第、発注します。

次に浄水場関係は、長船水源地の非常用発電設備設置工事が終了しました。また他にも老朽施設の修繕や、水質管理機器の更新を行って、安全な水道水の供給に努めています。

公共下水道事業

牛窓処理区では、現在、浄化センターの基礎工事を実施しています。

邑久処理区は、日本下水道事業団へ委託の幹線管渠工事が約6割進捗しています。牛窓・邑久処理区とも管渠工事発注に向けて準備を進めています。また、19年度予定の面整備の管渠詳細設計業務にも着手しています。

長船中央処理区は、浄化センターと幹線管渠の設計業務を実施中です。

下水道事業は、早期、かつ計画的に推進すべき事業ですが、財政状況が厳しい中で編成された今年度の当初予算では、事業量全体を、本来の計画より縮小させて施工する予定でした。

しかし、下水道の建設事業費の財源の中で、起債の充当率が変更され、当面の市費が少なくて済むことになり、改めて、本来の計画どおりの事業量を実施できる予算を編成することができました。

病院事業

病院事業管理者を中心に、市内の医療情勢や地域医療連携を踏まえながら、岡山市内の基幹病院との地域連携を、より一層

応については、救急救命士を中心に教育訓練を重ね、救急隊の一層の資質向上を図るとともに、地域住民に対する予防救急の推進や自主救護能力の向上などといった救急対策を積極的に展開していきたいと考えています。

防災については、台風や大規模地震による大規模災害はいつ発生しても不思議ではない状況にあり、今年も大規模災害を想定しての防災訓練を10月29日(日)に今城小学校で実施します。

地域住民の皆さんに多数参加していただき、有効な訓練にしたいと考えています。

教育委員会部局

教員の免許更新制導入について、中央教育審議会は、7月11日、教員に必要な資質能力は「本来の時代に進展に応じて更新が図られるべき性格」があると指摘し、10年間の有効期限による更新制を導入することで、資質能力を刷新していくことを求

めた答申を文部科学大臣に提出しました。教師が絶えず崇高な使命感を持ち、国民に信頼されるためには、資質能力の向上に努めることは、教師として絶対条件で免許更新も理解できま

しかし、更新にあたって30時間程度の講習の義務が課せられていることは、現在の小中学校の現状を考えたとき、果たしてこのようなことができるのかと思えてなりません。

現在も法定研修として、初任者研修、10年次研修があり、該当教師が研修に出席したときの授業は、講師によって行われています。本来教育は、学習者である児童生徒を中心に考えなければいけないわけです。

小中学校の現場を知らない人たちは、長期休業中に研修ができるといわれますが、例えば中学校では、中学校総合体育大会や対外試合などで、長い夏休みも教職員は多忙であります。

国においては教師がやりがいを持って意欲的に「免許更新」などへ取り組めるよう、現在の



昨年牛窓中学校で行われた防災訓練。今年は今城小学校で行います